

## 美濃和紙

このような紙を知っていますか？これは、日本古来の製法によって作られた紙で、「和紙」と言います。

これは、繊維を多く含んだ楮（こうぞ）や三桮（みつまた）といった植物を煮て、皮をはいで、その皮の黒い部分をはいで、漂泊して、などというたくさんの工程を経て作られるのです。手間のかかった大変な作業です。

日本には、多くの和紙の産地がありますが、福井県の越前和紙、高知県の土佐和紙、岐阜県的美濃和紙が日本3大和紙として知られています。日本人は、この和紙を使って、字を書いたり、包装紙として使ったり、人形を作ったり、電灯のカバーにしたりして楽しみました。

さて、6年生のお姉様方は、先週修学旅行がありました。いくつかの見学場所があったのですが、和紙の生産地「美濃市」に行ってきたのです。そこでは、美濃の古い街並みを散策したり、美濃和紙の里会館へ行ったりすることができました。

古い街並み散策では昔からその土地に住む方のお話を聞いたのです。昔は和紙がたくさん売れた。だから、生活も潤っていて、いい生活もできた。でも、西洋の紙が入ってきて、和紙が売れなくなると生活も苦しくなり、この土地を離れる人が多くなってきた。そんな話を聞きました。でも、この古い街並みは、何とか残したい。多くのボランティアの方が古い建物や街並みを守っている姿が見られました。美濃の街を愛する方々の熱い思いが伝わってきました。

また、美濃和紙の里会館では、実施に和紙を漉く体験ができたのです。6年生全員が1枚ずつ和紙を型に流し込み、きれいに漉いて和紙を作りました。やがて漉いた和紙が学校に届くと思いますが、6年生の人たち楽しみですね。ここでも、日本の昔から伝わる伝統的な和紙を守ろうと努力している方々に出会いました。展示室には、和紙でできたドレスやおしゃれな電灯、コーティングしたイヤリングなどが展示されていました。

このように、日本人は昔から伝わる技術や建物を大切にしている人がいます。それを守っていこうと努力している人たちがいます。そのことを私たちは誇りに思いたいですね。

3泊4日の修学旅行でしたが、6年生の人たちは、今までの学習を生かそう、確かめよう、6年間で培ってきた生活習慣やマナーを発揮しようと思えばよかった。がんばりました。